

専修 明治 日本女子

多摩区3大学と川崎市 連携協議会を設置

川崎市多摩区にキャンパスを持つ専修大学、明治大学、日本女子大学は、大学の知的・人的資源を活用し、地域の課題解決や文化振興を目指す目的で、川崎市と「多摩区・3大学連携協議会」を設置した。



12月2日、川崎市役所で行われた調印式には、阿部孝夫市長をはじめ、日高義博専修大学長、納谷廣美明治大学長、後藤祥子日本女子大学長が協定書にサインし、それぞれ抱負を述べた。

左から後藤日本女子大学長、納谷明治大学長、日高学長、阿部川崎市長

今後は、大学の知的資源の活用で「まちづくり」を推進するほか、多摩区役所でのインターンシップ、区役所内への箱根駅伝応援コーナーの設置、大学図書館・施設の開放などを行う。連携の第一弾として、来年2月8日に合同音楽イベントを開催する(詳細は次号で)。

日高学長は調印式後の記者会見で「今まで個々の大学で地域の発展に協力してきたが、今後は3大学が連携して、さらに規模の大きな取り組みが可能となる」と語った。

※多摩区・3大学箱根駅伝応援ポイント設置

青木一多摩区長も応援に駆けつけます(1月2日のみ。場所＝ハローワーク川崎前、集合は午前8時20分。

「かわさき男女共同参画ネットワーク」

「すくらむねっと21」初代会長に出牛理事長が就任

川崎市が推進する「男女平等のまち・かわさき」の取り組みの一環として、「かわさき男女共同参画ネットワーク」(愛称・すくらむネット)が設立され、11月29日、川崎市役所で開かれた設立総会・全体会議で、出牛正芳理事長が初代会長に就任した。席上、出牛理事長は「男女がともに個性と能力を十分に発揮できる社会の実現のため、このネットワークを生かしていきたい」と就任のあいさつを述べた＝写真。



このネットワークは、川崎市商工会議所をはじめ教育、産業、医療、福祉など42の民間団体が参加し、情報交換、研修会等の事業を行うもので、講演会やイベントの開催、男女共同参画に積極的に取り組む団体の表彰などを実施していく。

情報誌やインターネットを活用しての情報発信も行う。

司法試験・公認会計士2次試験合格者

現役合格の眞栄城大介さんから3人に話を聞いた。

司法試験合格：小林一成さん



エクステンションセンターの司法試験受験対策講座が本格的にスタートした時の“一期生”です。9回目のチャレンジでの合格。「ホッとした」というのが、今の正直な気持ちです。

2年前、富山市の実家の祖母が交通事故に遭い、瀕死の重症を負いました。その時、相手方や保険会社との交渉で、一般の人々の法律知識の乏しさを実感。民訴に興味を持つようになりました。事故をきっかけに、庶民を助ける弁護士になりたいと決意。目的意識を持ち、基礎的な勉強の重要性を認識、司法試験の全体像をつかめるようになりました。町の弁護士として法律以外の勉強をすることも大事だと思います。

今ではすっかり元気になった祖母をはじめ、家族が「合格」を喜んでくれました。

司法試験合格：眞栄城大介さん



尊属殺人事件の法定刑が「法の下の平等」に違反すると訴え、重罰に処せられなかった「栃木実父殺し裁判」を知り、法律に興味を持ちました。高校時代のことです。

現役合格の秘訣は、と聞かれても一概には言えませんが、択一、論文を問わず基本書で理解したことを基礎として、多くの問題をこなしたことが効果的だったのではないかと思います。

専大は、司法試験突破への素晴らしい環境が整っていますし、昨年の現役合格者、鈴木康祐さん(平17法)から指導を受け、アドバイスしていただいたことも大きな支えとなりました。ヘビメタ系の音楽をガンガン聴くのが好きで、受験勉強の合間に息抜きをしました。

将来は、企業法務を専門とする弁護士になりたいです。

公認会計士第2次試験合格：落合光一さん



3回目の挑戦で合格しました。2回までは、予備校での「答練」の成績に左右され、受験勉強法で悩み、不安との戦いでした。しかし今回は、成績が悪くても気持ちを切り替えるよう心掛け、平常心を保つよう努めました。それがよかったのかもしれません。

最初に「合格」を伝えたのは両親です。家族の温かい支援がなかったら、ここまで来られなかったと思います。加えて、大学2年次の時に始まったエクステンションセンターの「会計士講座」を受講、飛び級(上級カリキュラム受講)制度の選抜生にもなったことが試験突破への大きなきっかけとなりました。

今年度の司法試験最終合格者8人と公認会計士第2次試験合格者10人は以下の通り。

◆司法試験◆ 8人

笹木祿朗さん
 (昭59院経営修、出牛正芳ゼミ、東京都文京高)
 吉川友朗さん
 (平9法、田高實貴ゼミ、静岡県静岡学園高)
 矢野敏生さん
 (平9法、神奈川県百合丘高)
 小林一成さん
 (平11法、岩井宜子ゼミ、富山県富山工業高)
 林大悟さん
 (平12法、日高義博ゼミ、東京都東京農大第一高)
 永田健一さん
 (平12法、梅本吉彦ゼミ、青森県青森高)
 稲垣悠一さん
 (平13法、日高義博ゼミ、長野県東海大第三高)
 眞栄城大介さん
 (法4、良永和隆ゼミ、千葉県専修大学松戸高)

◆公認会計士第2次試験◆ 10人

那須真由子さん
 (平11商、岡山県就実高)
 細田康弘さん
 (平12商、埼玉県川越東高)
 花城克枝さん
 (平13商、壽崎雅夫ゼミ、沖縄県昭和薬科大学付属高)
 長谷川陵子さん
 (平14商、松原成美ゼミ、千葉県日本大学習志野高)
 高橋星行さん
 (平14経営、高津信三ゼミ、東京都京華高)
 小須田真一さん
 (平15商、奥村輝夫ゼミ、千葉県専修大学松戸高)
 大塚珠己さん
 (平16商、神奈川県荏田高)
 落合光一さん
 (平16経営、櫻井通晴ゼミ、千葉県)

公認会計士は、資本市場が適正に機能するための、重要な役割を担う仕事。信頼される会計士を目指します。

津田沼高
平山友暁さん
(平17商、千葉県国府台高)
大島弘雅さん
(平17経済、岐阜県恵那高)

2006年度入学者を考える

FD委の研究会開く

2003年の新学習指導要領の一部改正と全面实施により全角)「新課程」で学んだ高校生が入学してくる2006年度を目前に控え、大学はどのような対策をとるべきかを大学全体で考えるため、全学FD委員会(委員長=浅見和彦経済学部教授)が研究会を11月15日、生田キャンパスで開いた。

講師は高大連携協定校である都立狛江高校の松本隆校長=写真。冒頭、松本校長は、親と生徒が高校生活に求めるものの違いを述べ、学習時間の減少による高校のカリキュラムの変化を解説、さらに方向性が固まらないうちに進路選択をせざるを得ない実態などを語った。

参加した教職員からは、「ゆとり教育による“功”の部分はあるのか」「高校生はどの時点で進路選択するのか」といった質問が出された。



「日本交通学会賞論文賞」

太田商学部教授が受賞

交通経済学が専門の太田和博商学部教授＝写真＝が日本交通学会賞論文賞を受賞した。

加藤一誠日本大学経済学部教授との共著による論文「産業連関表における自家輸送部門の修正—粗付加価値の導入による現実への接近—」(『交通学研究』2005年3月)が評価されたもので、11月12日に開催された日本交通学会(斎藤峻彦会長)第64回大会において表彰された。



最終講義のご案内

- ▼鈴木啓三経営学部教授「オリンピックにおけるレスリング競技について」=12月19日(月)3時限・4時限
(佐藤満・助教授担当のスポーツ科学論と合同で両時限実施)・生田133号教室
- ▼小田中聰樹法学部教授「刑事訴訟法における憲法的思考」=1月10日(火)2時限・神田302号教室
- ▼仲井斌法学部教授「『激動する世界』—20世紀の回顧と21世紀の展望 | 」=1月12日(木)4時限・神田15号教室